表紙／病棟ラウンジに設置された「山並み眺望パネル」

**主な内容**


■ 新年のご挨拶
■ 頭頸部腫瘍センターのご紹介　他

東側眺望サイン

西側眺望サイン

Iwate Medical University Hospital News

# 地域医療連携だより

賀正

2021年1月号


Iwate Medical University 岩手医科大学附属病院　Iwate Medical University 内丸メディカルセンター

# 2021年 新年のご挨拶

Iwate Medical University Hospital Center

岩手医科大学附属病院
病院長 小笠原　邦昭

新年明けましておめでとうございます。旧年中は格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。本年も昨年同様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は皆様もコロナ禍に対し多大なるご努力をされた１年ではなかったかと思います。当附属病院でも、新型コロナウイルス肺炎最重症患者および重症合併症を持つ新型コロナウイルス肺炎患者の受け入れ、地域発熱者外来および新型コロナウイルス感染軽症者待機ホテルへの支援を行った上での通常診療の維持に職員一丸となって、対処した年でした。まだまだ感染状況は予断を許しませんが、終息するように微力ながら努力して参ります。

このコロナ禍ではありますが、新附属病院におきましても多くの改良、改革を行って参りました。移転前に綿密にシミュレーションしたと思ったのですが、実際との多くの解離がありました。幸い８月に病院機能評価を受審しましたので、この外圧を利用して、安全安心な病院になるべく努力いたしました。職員には相当の負担を強いましたが、皆様に安心して患者さんをご紹介いただき、高度医療を行えるようになったと感じます。しかし、医療の進歩にゴールはないように医療安全にもゴールはありません。さらに、病める患者さんに対し少しでも希望を与え、かつ皆様に「紹介してよかった」と思っていただけるような病院を目指します。そのためには、皆様の当院に対するご指導が重要です。忌憚のないご意見を今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、コロナ禍が終息し、本年が皆様にとって良い年でありますように祈念いたします。

Iwate Medical University Uchimaru Medical Center

## 内丸メディカルセンター
## センター長　下沖　収

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症により市民生活や社会活動に大きな変化を余儀なくされ、また医療施設も次々と対応が迫られる目まぐるしい１年となりました。まだまだ闘いは続きますが、内丸メディカルセンター（以下内丸 MC）としましても社会の要請に可能な限りお応えすべく努力して参りたいと考えております。

さて、矢巾町へ附属病院が移転、同時に内丸 MC が開設してから１年数ヶ月が経過しました。内丸 MC では医科 19 科、歯科 10 科が専門科外来を行っており、加えてリプロダクションセンター、睡眠医療センターなど特色ある外来も設置されております。大学病院の高度外来機能を担う一方で、紹介状なしでも選定療養費はいただかず、受診科に悩む場合はプライマリ外来（総合診療科）で幅広く対応、また画像診断や各種検査も待ち時間少なく実施可能など、受診しやすい医療施設となっております。しかしながら、全診療科が揃っておらず、救急対応が限定的であり、入院診療のほとんどが矢巾附属病院で行われるなど、従前とは大きく異なる体制となったのも事実です。このことから、地域の先生方や市民の皆様には、２つの施設の診療内容、紹介等が解り難いとのご意見を頂戴しております。これらの課題は矢巾附属病院、内丸 MC 共通のものとして各種ワーキンググループを起ち上げ取り組んでおります。解り難いとされてきた受診、紹介に関しては、019-908-9111 お電話１本、来れば心地いい（908-9111）により、矢巾附属病院、内丸 MC 何れにも対応できる体制となりました。内丸 MC の最重要課題は外来機能の充実であります。今年は診療科の増設をめざす他、複数診療科の連携が必要な疾患については、入口を一本化した診療センター化も進めて参りたいと考えております。また、わかりやすい情報提供のためにホームページのリニューアルを進め、各種メディアを活用しての情報発信にも努めて参ります。

今後、内丸 MC は「大学病院の外来機能」に加えて「地域医療の拠点」としての成長も求められるものと考えております。高齢患者さん増加によるニーズの高まりのみならず、患者さんを地域の生活者として全人的に支える「全人的地域総合医療」を具現化できる施設となるべく、各医療機関、医師会の先生方、訪問看護、各種事業所の皆様との連携をより一層強めて参りたいと考えております。今年も引き続き、岩手医科大学附属病院ならびに内丸 MC に対しまして、ご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。最後になりましたが、皆様にとりましてこの年が、コロナ禍をものともせぬ実り多い１年となりますようお祈り申しあげます。

# 頭頸部腫瘍センターのご紹介

## 「北日本最大級の頭頸部癌治療施設として最先端のがん治療を提供」

頭頸部腫瘍センターは 2018 年 4 月に岩手医科大学附属病院内に設置され、頭頸部腫瘍の集学的治療を目的とした診療科の枠を超えた専門施設です。頭頸部外科、口腔外科を中心に診療していますが、関連する診療科としては形成外科、外科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、総合歯科、補綴科など多岐にわたっております。窓口を一元化することにより口腔癌を始めとするすべての頭頸部腫瘍についてスムーズな診断・治療が行われるように取り組んでいます。

頭頸部腫瘍センター長
頭頸部外科　教授
志賀 清人

### 組織図

**頭頸部腫瘍センター**
Head and Neck Cancer Center

| 頭頸部外科 Head and Neck Surgery | 口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery |
|---|---|
| 診療科部長　志賀　清人 | 診療科部長　山田　浩之 |

# 頭頸部腫瘍の特徴

頭頸部腫瘍センターでは、頭部～頸部領域の手術治療が中心です。深頸部膿瘍などの感染や外傷なども扱いますが、主体は頭頸部に発生する腫瘍の治療です。症例の大半は口腔・咽喉頭の扁平上皮癌です。手術のほか、化学療法や放射線治療を組み合わせた集学的な治療を行う一方、進行例の手術では再建術が必要で、外科・形成外科との共同手術を行っています。頭頸部は消化器としての働き、上気道としての働き、感覚器としての働き（聴覚・嗅覚・味覚）、意思表示としての発声など極めて重要な役割を担った領域なので、予後を改善することはもとより、治療後の QOL に十分配慮して治療を進める必要があります。

# 診療体制

## ■外来部門

外来部門は附属病院 3 階東側の J ブロックに設置されています（写真左）。新患外来は水曜日の午前に設定されています。年間およそ 500 名ほどの患者さんが紹介されてきます。当院地域医療連携センター事務室へ連絡していただければ予約を取ることができます。気道狭窄などで急を要する場合にはこの限りではありませんが、当センタースタッフにご連絡ください。再来の外来は月曜日と水曜日の午後になっております。外来での治療として早期の喉頭癌や術後照射など外来放射線治療を行っています。また、当院がんセンターには化学療法センターが設けられており、外来通院で化学療法や免疫療法が可能であり、Nivolumab などに随時対応しています。

## ■入院部門

西 8 階 A 病棟が頭頸部腫瘍診療の中心となっています。手術日は火曜日と金曜日で、火曜日には形成外科や外科と共同の再建付き手術を行うことが多くなっています。月曜日～金曜日は放射線治療を行っている患者さんの照射日です。ベッドサイドで歯科衛生士による口腔ケアや言語療法士による嚥下リハビリ、術後の作業療法・理学療法などのリハビリを行っています。術後や放射線治療中・治療後の口腔～咽喉頭の粘膜炎で嚥下障害をきたす患者が多いことから、栄養管理が重要であり、栄養部の関与が必須です。

## ■カンファランス

他診療科との共同カンファランスを定期的に開催しており、月曜夕には放射線治療科・外科（食道外科）・矢巾歯科との放射線治療症例のカンファランスを行っています。火曜日朝には形成外科と再建術症例についてのカンファランスを行っています。火曜日午後には病棟で入院患者さんについての他職種カンファランスが行われ、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、ST、PT、MSW、ケアマネージャーなどが頭頸部がん患者の治療・管理・退院後の支援など多岐にわたって話合っています。

# 診療実績と当センターの特徴

## 症例数の推移→増加傾向

表にここ５年間の新患数を示します。当院は頭頸部がん専門医認定施設に指定されており、これは学会に提出する記録のまとめです（2017年以前は頭頸部外科単独）。症例数は矢巾への移転後も増加傾向です。咽頭癌が増加している他、口腔癌がほぼセンター開設前に比べて倍となっています。岩手県内はもとより青森県や秋田県からも患者が集まっており、北東北最大の頭頸部腫瘍治療施設となっております。

### 【頭頸部癌新患症例の年次推移】

■**新患症例**（外来：セカンドオピオンを含む）

| | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 口腔癌 | 38 | 44 | 56 | 65 | 91 |
| 咽頭癌 | 49 | 50 | 38 | 63 | 57 |
| 喉頭癌 | 23 | 37 | 30 | 29 | 17 |
| 鼻・副鼻腔癌 | 12 | 21 | 13 | 14 | 11 |
| 甲状腺癌 | 10 | 5 | 14 | 5 | 13 |
| 唾液腺癌 | 13 | 10 | 11 | 10 | 9 |
| その他頭頸部がん | 16 | 15 | 13 | 15 | 27 |
| 計 | 161 | 182 | 175 | 201 | 225 |

■**放射線治療・化学療法・緩和療法症例**（主たる治療が手術以外）

| | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 口腔癌 | 7 | 4 | 5 | 9 | 19 |
| 咽頭癌 | 32 | 22 | 17 | 42 | 41 |
| 喉頭癌 | 14 | 12 | 22 | 17 | 11 |
| 鼻・副鼻腔癌 | 10 | 12 | 5 | 11 | 6 |
| 甲状腺癌 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 唾液腺癌 | 2 | 3 | 1 | 3 | 1 |
| その他頭頸部がん | 4 | 2 | 7 | 3 | 10 |
| 計 | 73 | 55 | 57 | 85 | 89 |

■**手術症例**（主たる治療法が手術）

| | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 口腔癌 | 31 | 36 | 51 | 56 | 72 |
| 咽頭癌 | 17 | 23 | 21 | 21 | 16 |
| 喉頭癌 | 9 | 11 | 8 | 12 | 6 |
| 鼻・副鼻腔癌 | 2 | 8 | 6 | 3 | 5 |
| 甲状腺癌 | 6 | 3 | 14 | 5 | 12 |
| 唾液腺癌 | 11 | 6 | 10 | 7 | 8 |
| その他頭頸部がん | 12 | 11 | 6 | 12 | 17 |
| 計 | 88 | 98 | 116 | 116 | 136 |

## 標準治療と治療の工夫

治療方針はガイドラインに則った標準治療を主としており、JCOG には頭頸部がんグループの一員として参加し臨床試験に症例を登録しています。咽頭癌・喉頭癌の早期癌の手術では内視鏡下手術を積極的に取り入れて術後の QOL 向上を図っています。進行癌の手術では広範囲な切除に伴う欠損部位の再建が必要で、形成外科との共同手術を多数行っています。近年、目覚ましい発展を見せている化学放射線治療では、より良い成績を目指して進行癌に対する TPF（ドセタキセル＋シスプラチン＋ 5-FU）併用放射線治療で高い治癒率と生存率を得ています。上顎癌では放射線診断科と共同でシスプラチンの超選択的動注化学療法を行い、放射線治療併用で非常に高い奏功率と生存率を得ています。

また、医療チーム・多職種連携を図り、特に歯科には治療前にいわゆる「がん治療医科歯科連携」目的にほとんどの症例を紹介して歯科治療を行っていただき、さらに化学放射線治療中にはベッドサイドでの口腔ケアも施行しております。口腔癌、咽頭癌など術後の嚥下障害が予想される手術症例では言語療法士による嚥下リハビリを早期から行っています。

## 新たな治療法＝粒子線治療

当院では装置が無いため治療はできませんが、2018 年から頭頸部悪性腫瘍に対して粒子線治療の適応が認められ、それまで高額な治療費が必要だった粒子線治療が保険適応となりました。重粒子線は千葉の放射線医学総合研究所（QST 病院）、陽子線治療は郡山の南東北がん陽子線治療センターに多くの患者を紹介しており、高い奏効率を得ています。

## 新たな治療法＝ BNCT

BNCT（ホウ素中性子線捕捉療法）が 2020 年に保険適応となりました。治験の段階から関わってきましたが、再発頭頸部癌の治療として今後発展していくものと思われます。すでに数例の患者さんを南東北 BNCT 研究センターに紹介しています。

## 頸動脈小体腫瘍＝遺伝性褐色細胞腫・傍神経節腫症候群

頸動脈小体腫瘍は極めて稀な頸動脈分岐部の圧受容体の傍神経節細胞から発生する腫瘍（傍神経節腫）で、WHO の 2017 年分類で悪性コードが付されたため、緩徐な発育を示す腫瘍ですが、特に若年者では摘出術を考慮する必要があります。遺伝性褐色細胞腫・傍神経節腫症候群として SDH( コハク酸脱水素酵素 ) の病的バリアントが知られていましたが、これまでの我々の研究成果で、今まで知られていたよりも多くの患者が変異を有していることが明らかになりました。地域偏在があり、宮城から岩手にかけては患者が多いため、当センターでは国内随一の手術成績を誇り、国内各地から手術症例が紹介されるようになりました。治療にあたっては脳神経外科と放射線診断科の協力で安全かつ正確な手術を目指しています。また、遺伝子変異の解析を行っており、病的バリアントが明らかとなった症例は当院臨床遺伝科に紹介して遺伝カウンセリングを行っています。

# 患者さんの声 から改善しました！ 改善しました Vol.3

当院では患者さんの声を聞くため、院内の 21 ヶ所に「投書箱」を設置しております。患者さんからいただいた貴重なご意見から、改善した事例をご紹介します。

## 事例 病院からタオルや紙おむつ、日用品を提供してほしい

交換や洗濯が大変。清潔なタオルを使用できる入院のセットがほしい。

家族に届けてもらうのは気が引ける・・・
紙おむつを発注、配達できるようにしてほしい。

※写真はイメージです。

１日単位でご利用いただける入院セットをご用意いたしました。
貴重なご意見有難うございます。

患者さんとご家族様の負担軽減、衛生環境向上、質の高い看護ケアの提供の観点から日額定額制でご利用いただける入院セットのサービスを導入いたしました。入院セットでは、患者衣・タオルセット、紙おむつセット（大人用、新生児小児用）をご利用いただけます。また入院に際し必要な日用品のセット販売も開始致しました。

改善しました

Iwate Medical University
岩手医科大学附属病院
患者サポートセンター

地域医療連携だより（岩手医科大学附属病院）１月号
【発行日】2021年１月１日
【発　行】岩手医科大学附属病院 患者サポートセンター（地域医療連携センター事務室）
〒028-3695　岩手県紫波郡矢巾町医大通2-1-1
TEL：019-613-7111（内線4152）　FAX：019-611-8071
【印　刷】河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7　TEL　019-623-4256　E-mail：office@kahoku-ipm.jp